



につなぐ

来未

# 栃木市 ヒストリー ブック



栃木市教育委員会



栃木市マスコット  
キャラクターとち介



# はじめに

栃木市は歴史的な街並みが残る「蔵の街」として知られています。また「三轟山」「巴波川」「渡良瀬遊水地」などの豊かな自然や、米・いちご・ぶどうをはじめとするいろいろな農産物を生産する農業地帯など、多くの魅力にあふれています。

先人たちは、遠い昔から力を合わせて山野を切り拓いて農作物をつくり、知恵を出して産業をおこし、たゆみない努力と工夫を重ねながら地域文化をつくり、現在の栃木市の礎を築いてきました。そんなわたしたちが住む栃木市は、どのようにしてできたのでしょうか。

ここでは、昔の栃木市にどんな人たちが暮らし、どんな活動をして、どうやってまちをつくってきたのか、その歴史をわかりやすく紹介しています。時代が目まぐるしく変化する今日、栃木市が歩んできた歴史を学ぶことで、あらためて私たちの市に愛着をもつとともに、先人たちがつくった歴史や文化をどう未来につないでいくのか、そして私たちがこれから栃木市をどんなまちにしていきたいのか、考える参考になればうれしいです。

## もくじ

はじめに	-----	02
歴史年表	日本と栃木市の出来事 -----	04
縄文時代	大昔の栃木市には海があった!?	06
弥生～古墳時代	市内に残る古墳から見えてきた有力者の誕生 -----	08
奈良～平安時代	1300年前に「下野国府」が栃木市にあった! -----	10
鎌倉～安土桃山時代	有力武士が戦いをくり広げた下野国の戦国 -----	12
江戸時代	人と物の往来でにぎわった江戸時代 -----	14
近現代① 明治～昭和初期	文明開化から急速に近代化 -----	16
近現代② 戦後～現代	歴史と自然が共存する栃木市へ -----	18
資料	栃木市にある貴重なたからもの -----	20

## ▶ 栃木市の歴史を理解するために知っておきたいこと

### ● 位置

栃木県の南部に位置しています。市の西側は茨城県古河市、埼玉県加須市、群馬県板倉町とつながり、3つの県の境(栃木・群馬・埼玉)が平地にあるめずらしい地域です。

### ● 地形

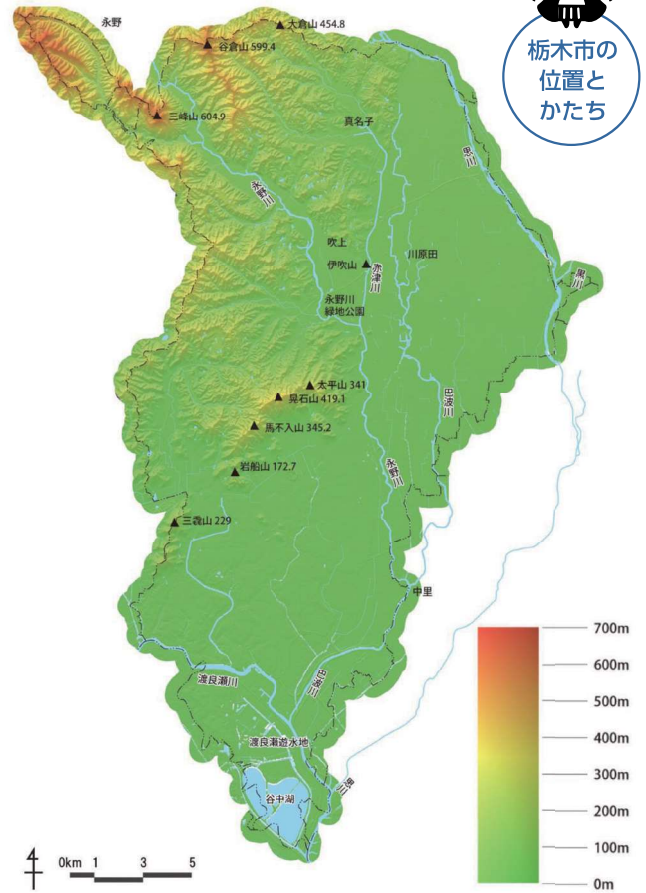
大部分が関東平野の一部となる平地で、北西部のみ足尾山地に続く丘陵地(山地と平地との中間的な地形)になっています。

### ● 山地

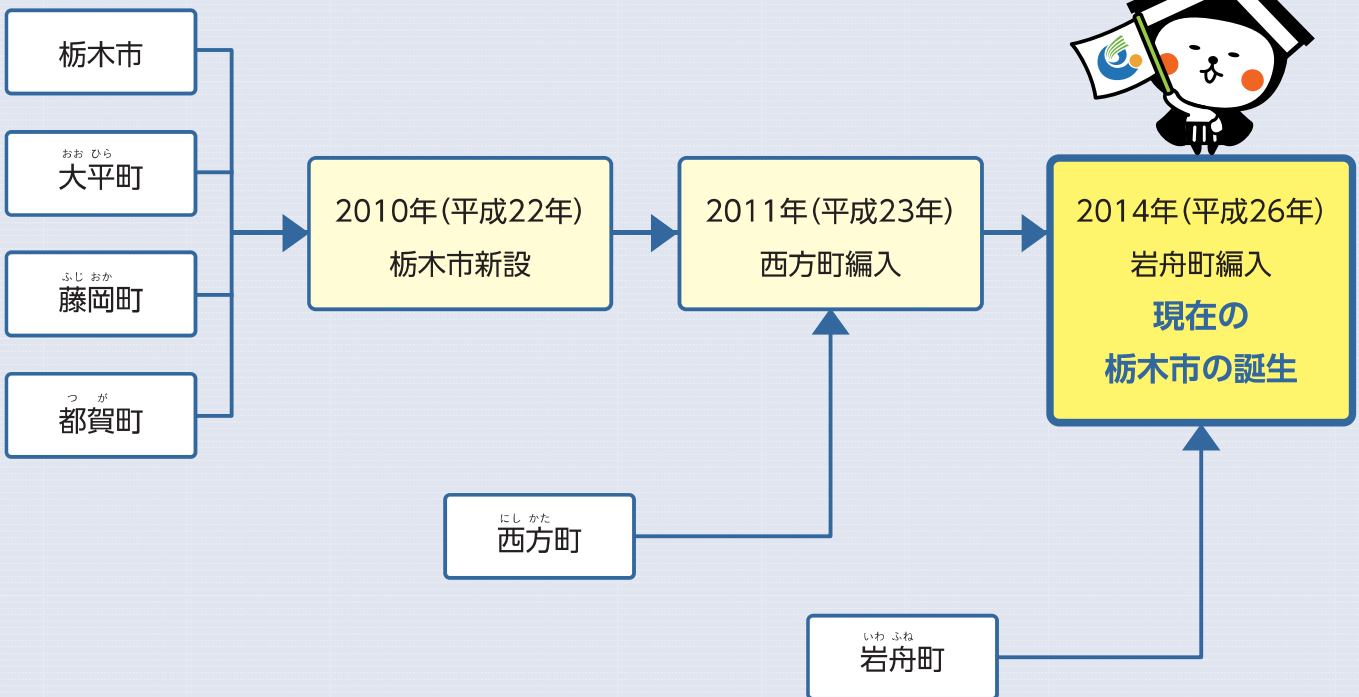
北部の山岳地帯には、大倉山、谷倉山、三峰山などの山々がそびえ、中央から西部には、太平山、岩船山、晃石山、馬不入山、三轟山などの山々が連なっています。

### ● 河川

市内には思川、渡良瀬川、永野川、巴波川、赤津川などの河川が流れています。



## 🔍 今の栃木市になるまで





# 歴史年表

# 日本と栃木市

年号	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸
日本の出来事	○狩りや漁をして暮らす 今の日本列島の形ができる(一万六〇〇〇年ほど前)	米づくりが日本各地で行われるようになる 小さくなくが各地にできる	○古墳が各地につくられる 大和朝廷(大和政権)が日本を統一しはじめる	藤原京がつくられる(六九四) 大化の改新が始まる(六四五) 聖徳太子が政治をとる(五九三)	平城京に都を遷す(七一〇)	○武士が力もち始める 平安京に都を遷す(七九四)	鎌倉幕府がたおれる(一一三三) 源頼朝が幕府を始める(一一八五)	○一〇〇年ほど国が乱れる 応仁の乱がおこる(一四六七~一四七七) 足利尊氏が征夷大將軍となる(一三三八)	豊臣秀吉が全国を統一する(一五九〇) 織田信長が室町幕府をたおす(一五七三)	○百姓の一揆や打ちこわしが多くなる ○町人の力が強くなり、町人文化が育つ 日光東照宮が創建される(一六一七) 徳川家康が73歳で亡くなる(一六一六) 徳川家康が江戸幕府を開く(一六〇三)
	栃木市の出来事	篠山貝塚・藤岡神社遺跡 動物を狩ったり植物をとったりした集団定住生活が始まる 6-7ページ	弥生時代に特徴あるお墓がつくられる 弥八田遺跡・大塚古墳群内遺跡 8-9ページ	地域の有力者の墓(古墳)がつくられる 吾妻古墳・山王寺大榭塚古墳・下野七廻り鏡塚古墳 8-9ページ	「窯業」と「製鉄業」が発達する 「下野国府」が今の栃木市に置かれる 10-11ページ	武士が力をつけ始め、下野国府が衰える 12-13ページ	皆川広照が皆川城に拠点を置く 西方城がつくられる	沼尻の合戦(一五八四) 皆川広照が皆川城に拠点を置く 西方城がつくられる	皆川広照が栃木城をつくる(一五九〇以前) 14-15ページ	「舟運」と「日光例幣使道」で商人の町として発展 14-15ページ



# の出来事

	明治	大正	昭和	平成	令和
<p>江戸幕府がたおれ、武士の世の中が終わる(一八六七) ペリーが浦賀に来る(一八五三)</p>	<p>明治維新 日露戦争がおこる(一九〇四) 日清戦争がおこる(一八九四) 大日本帝国憲法が公布される(一八八九) 伊藤博文が最初の内閣総理大臣になる(一八八五) 栃木県が設置される(一八七三) 藩を廃止して県を置く(一八七二) 首都が東京に移される(一八六九)</p>	<p>関東大震災がおこる(一九二三) 第一次世界大戦に参戦する(一九一四)</p>	<p>○ 公害が社会問題となる オリンピック東京大会が開かれる(一九六四) 東海道新幹線が開通する(一九六四) ○ 経済がめざましく発展する 日本国憲法が公布される(一九四六) ポツダム宣言を受け入れる(敗戦)(一九四五) 広島・長崎に原爆が落とされる(一九四五) 太平洋戦争がおこる(一九四一) 日中戦争がおこる(一九三七) ○ 世の中が不景気になり、失業者が増える</p>	<p>東日本大震災がおこる(二〇一一) ○ 不景気が深刻になる 阪神・淡路大震災がおこる(一九九五)</p>	<p>「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開かれる(二〇二一) 新型コロナウイルス感染症が流行する(二〇二〇)</p>
<p>天狗党の乱(一八六四)</p>	<p>両毛鉄道(現・JR両毛線)が開通(一八八八) 県庁が宇都宮に移る(一八八四)、足尾銅山鉍毒事件 栃木県誕生。栃木町に県庁が置かれる(一八七三) <b>16-17ページ</b></p>	<p>近代化するまち <b>16-17ページ</b> 栃木町が栃木市(旧栃木市)になる(一九三七) 東武鉄道日光線・宇都宮線が開通(一九二九・一九三一)</p>	<p>東北縦貫自動車道栃木インターチェンジの使用が始まる(一九七二) 下駄製造とぶどう生産で戦後の復興をとげる <b>18-19ページ</b></p>	<p>岩舟町と合併し新しい栃木市になる(二〇一四) 渡良瀬遊水地がラムサール条約に登録される(二〇一一) 嘉右衛門町が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定される(二〇一一) 西方町と合併(二〇一一) 栃木市・大平町・藤岡町・都賀町の1市3町が合併(二〇一〇)</p>	





じょうもん

# 縄文時代

約16000年前～2400年前

# 大昔の栃木市に

## 移動から定住へ —ムラのはじまり

縄文時代、人々はそれまでの狩りをしながら移動する生活から、長い期間同じところで生活できる家をつくり、みんなで集まって生活するようになりました。これが「ムラ」のはじまりです。



▲ 藤岡地域周辺の貝塚分布(縄文時代前期)  
(『藤岡町史 通史編 前編』より(一部加工))

## 栃木市の縄文遺跡から 貝が出土

栃木市内にも縄文時代の「ムラ」のあと(遺跡)がいくつか残っています。そのうちの1つが藤岡地域にある「篠山貝塚」です。この貝塚からは住居あとや食料にしたシカやイノシシなどの動物の骨、ヤマトシジミの貝殻、骨で作った針、魚を刺してとる道具などが出土しています。

なぜ海がない栃木市の遺跡から貝が出土するのでしょうか。実は縄文時代は、長く続いた氷河期が終わり、気温が上がってきた時期でした。そのため北極や南極をおおっていた氷がとけ出し、海水面が上昇、日本全国で海岸線が内陸のおく深くまで入りこむ現象が起きていました。縄文時代の栃木市も、藤岡地域の近くまで海水が入りこんでいたため、陸だけでなく海からも食料を集めて生活していたと考えられています。

# は海があった!?

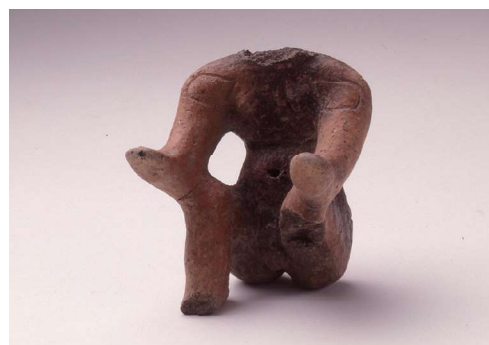


## ▶ 出土品から見える 縄文時代の豊かな暮らし

縄文時代の人々は生き物を狩ったり木の実をとったりして生活していましたが、近年、その暮らしは私たちが想像するより豊かだったことがわかってきています。旧(古い)渡良瀬川左岸にある藤岡神社遺跡では、犬やイノシシなどの動物形土製品や、女の人が立てひざをした姿勢の土偶などが出土しています。犬は狩りに使い、イノシシや鳥は狩りでとる動物でした。縄文時代の人々は土偶で食物に感謝の気持ちを表していました。縄文時代の人々が多様な文化や思想をもっていたことがうかがえる貴重な資料です。



▲ 藤岡神社遺跡出土 動物形土製品



▲ 藤岡神社遺跡出土 土偶

...column 教えて!とち介...



## 縄文時代以前の栃木市に 人は住んでいたの?

市内では縄文時代以前に人が生活していたのでしょうか? 星野町で出土した石器は、4万年以上前のものかどうか学者の間で論争がおきました。また平井町の向山遺跡では、縄文時代以前から石材を採取していたあとが確認されています。今後の調査や研究によって、縄文時代より前の様子が見えるかもしれませんね。

▼ 星野遺跡で見つかった石核※  
※ 石の道具を作った後に残った石

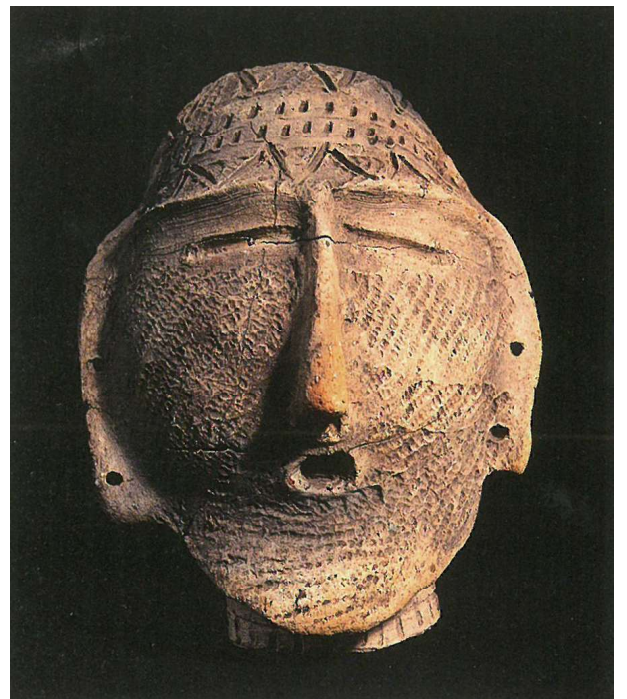




## 調査が進む弥生時代の生活と墓のあと

米づくりなどの技術が大陸から伝わった弥生時代。深いみぞで囲まれた集落が「ムラ」や「クニ」と呼ばれるようになり、全国でその地域の有力者たちのお墓がつくられるようになりました。

栃木市内では弥生時代のムラのあとは確認されていませんが、西方町の弥八田遺跡と大塚町の大塚古墳群内遺跡では、弥生時代のお墓が発見されました。下の写真は墓に埋めた死者の上に置いてあった土器です。死者の顔を表したのでしょうか。



▲大塚町の大塚古墳群内遺跡で見つかった人面付土器



# 墳ふんから見えてきた有力者の誕生

## 市内こふんの古墳から 貴重な副そう品が出土！

3世紀中ごろになると、大和地方やまと（現・奈良県周辺）にかぎ穴なのような形をした前方後円墳ぜんぽうこうえんふんが出現します。古墳こふんはその後各地に広がり、九州から東北まで大小さまざまな古墳がつくられるようになります。古墳ぜんぽうこうほうふんには前方後方墳えんふんのほか、円墳えんふん（丸い古墳）、方墳ほうふん（四角い古墳）などの種類があり、日本国内には約16万もの古墳が残っているとされています。

栃木市にも多くの古墳が確認されました。なかでも代表的な古墳が、大平町おおひらの下野七廻り鏡塚古墳しもつけななまわかがみづかです。この古墳は、直径約28mの円墳で、中から木製のひつぎに入った人骨と、刀やうるしぬりの弓と鉄の矢、くし、首かざり、馬具などが見つかりました。木製のひつぎが残っていることは少なく、死者のほうむり方がわかった貴重な古墳です。調査の結果、人骨は40歳前後さいの男性と推定され、いっしょに入れられた副そう品から6世紀中ごろにつくられた地域の有力者のものだと考えられています。



下野七廻り鏡塚古墳の発掘調査で  
見つかった舟形木棺



▲ 下野七廻り鏡塚古墳から出土したかざり付きの太刀  
(おおひら歴史民俗資料館に展示)

... Column 教えて！とち介 ...



## 栃木市にはどんな古墳があるんだろう？

わたらせゆうすいち  
渡良瀬遊水地に近い  
さんのおおますづか  
山王寺大榭塚古墳は、

四角と台形の盛り土をつなぎ合わせた「前方後方墳」です。4世紀後半ごろにつくられた、武人のお墓ではないかといわれています。また大光寺町だいこうじにある吾妻古墳あづまは前方後円墳で、栃木県内で最大の古墳として、国指定しせきの史跡になっています。

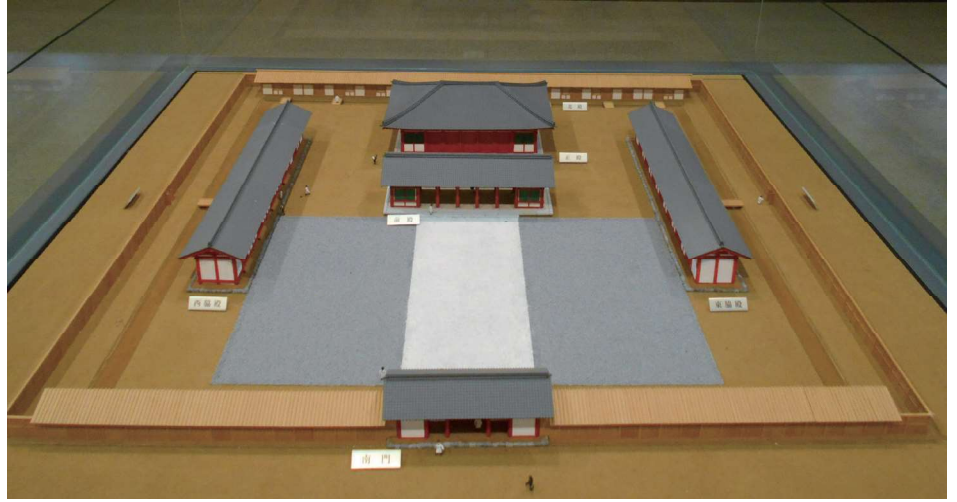


山王寺大榭塚古墳



## 古代の栃木県、「下野国」が誕生

日本の古代国家は、7世紀中ごろから天皇を中心に有力な貴族と役人が全国を支配する国づくりを進め、朝廷（天皇が政治を行っていた場所）は全国を現在の都道府県にあたる約60の国に分けました。現在の栃木県は「下野国」と呼ばれ、国の行政機関「下野国府※」が置かれました。



▲ 下野国庁の復元模型（下野国庁跡資料館）

下野国府がどこにあったのか、長い間わかりませんでした。1976年から始まった発掘調査によって、田村町の宮目神社周辺に国庁※があったことがわかりました。国庁の位置が特定され、建物の配置までわかる例は全国的にも少なく、貴重な発見です。

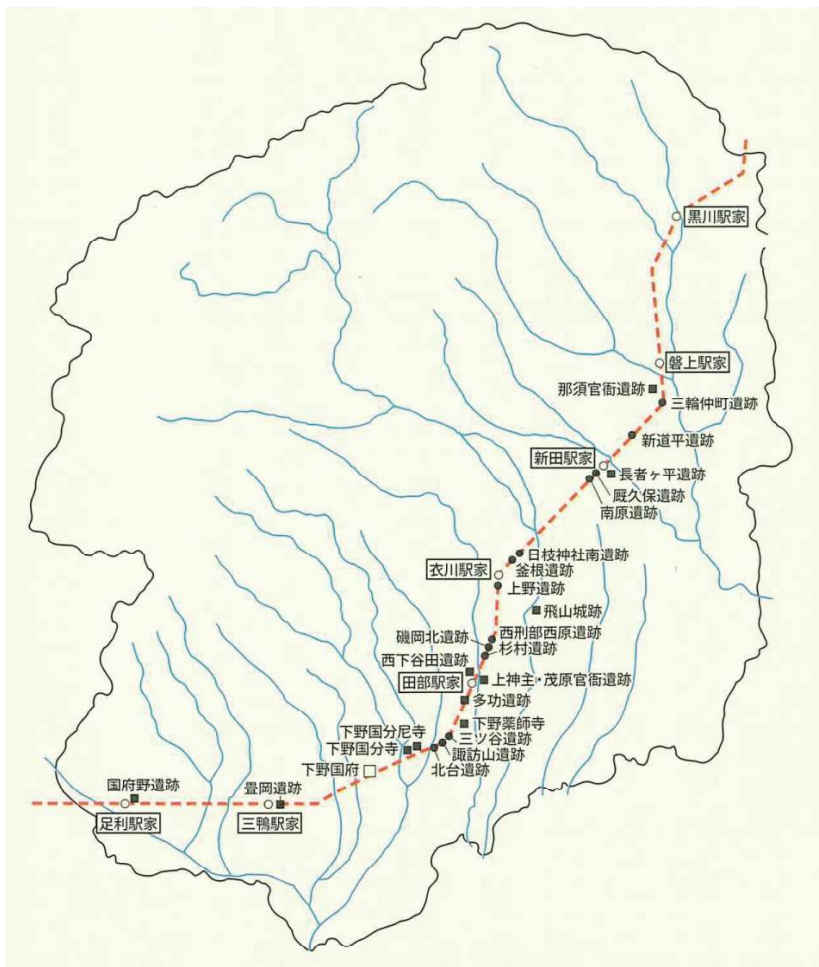
※「国府」は国の役所の所在地を意味し、その中で最も重要な施設が集まる所を「国庁」と呼ぶ。



# 「下野国府」が栃木市にあった!

## 中央と下野国府を結ぶ「東山道駅路」

この時代、朝廷は中央と地方の国府を結ぶ道路の整備も進めました。役人の移動や物資の輸送、地方の反乱をおさえるための軍隊などが移動するための道路です。道路には約16kmごとに「駅家」が設置され、とまる場所や食事などを提供してにぎわいました。駅を置いた路を駅路といい、都から信濃（現在の長野県）など都の東側の山道を通ることから「東山道駅路」といいます。下野国では足利郡（足利駅）、都賀郡（三鴨駅）から下野国府の南を通過し、東北地方につながっていました。



▲ 栃木県内の東山道駅路および関連遺跡（『西方町史』より）

...column 教えて!とち介...



### 下野国庁って どんな建物だったの？

下野国庁の中心となる建物は、正殿・前殿と左右の脇殿がコの字状に並んでいました。また南門から延びる幅9mの道「南大路」のあとも発見されています。また国庁あとからは墨で文字が書かれた土器や仕事の内容が書かれた「木簡」など多くの遺物も出土しています。当時の下野国庁と周辺では、なんと600人もの役人が働いていたと推測されています。

▼ 下野国庁跡前殿（復元）





## 武士の時代が始まる

平安時代の終わりごろになると、武器を手に自分たちの土地を守る豪族や農民が出てきました。武士の登場です。下野国でも少しずつ武士が力をつけるようになると、国府の力が弱まっていき、11世紀中ごろに下野国府はその役割を終えました。

鎌倉時代には、代々国府の役人を務めた小山氏が、今の栃木市東部に勢力を伸ばし、栃木市南西部は小野寺氏がおさめていました。それぞれの武士団は、鎌倉幕府や室町幕府に協力しつつ、自分たちの領地やそこに暮らす人たちを守るために、日本各地で戦いをくり広げていました。幕府の力が衰えた戦国時代になると、今の栃木市の範囲で強い勢力をもっていた武士として、小山氏一族の皆川氏、宇都宮氏一族の西方氏などが登場します。

1584年

### 沼尻の合戦

(藤岡町大田和・甲・都賀)

宇都宮氏を中心とした北関東の武士たち(皆川氏、佐竹氏、結城氏)が、下野国に攻め込んできた相模国(現在の神奈川県付近)の北条軍を三轟山南東山麓の沼尻で迎えました。戦いは両軍がにらみあったまま3か月も続き、勝敗がつかないまま北条軍は沼尻から退きました。



空から見た沼尻合戦古戦場あと

## 江戸時代まで生き延びた下野の戦国武士、皆川広照



皆川城跡航空写真

下野国の戦国武士の多くが、江戸時代までに身分や領地を取り上げられて姿を消しました。しかし戦国の世をかしく生きぬいた武将もいます。それが皆川広照です。広照は徳川家康などの実力者たちから信頼されて、江戸時代も大名として生き残りに成功。最後は江戸幕府3代将軍の徳川家光の話相手をつとめ、80歳で亡くなりました。

# 戦いをくり広げた下野国の戦国



...Column 教えて!とち介...

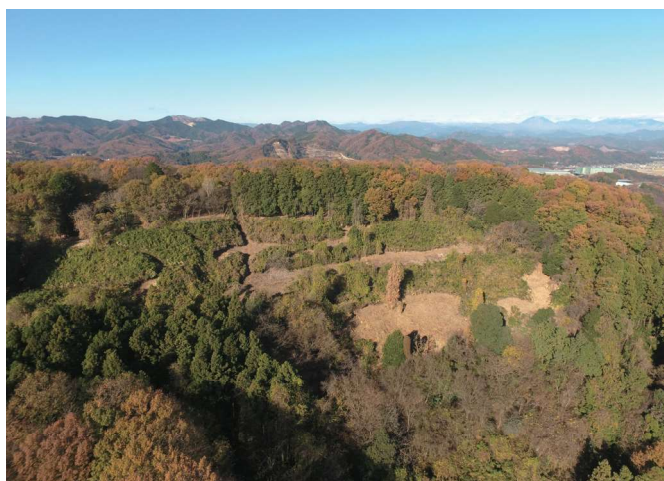


## 栃木市内に お城はあったの？

市内には鎌倉～安土桃山時代の城跡が残っています。その代表が「西方城」です。

西方城は戦国時代の初めに築城されたと推測される西方氏の城です。お堀や土の防壁に囲まれた山城で、山の高低差を巧みに利用した防衛拠点を配置。入り口をせまくしたり(虎口)、通路の横からも攻げき(横矢)できるような防衛の工夫がいくつも見られます。西方城は、敵の侵入を阻むためのたくさんの工夫を知ることができ、戦国時代の戦いの様子を実感できる貴重な遺跡です。

▼西方城跡航空写真





## 家康の死をきっかけに町が発展

皆川広照は1591年ごろに、それまでの皆川城から今の栃木市城内町の栃木城に本拠を移し、城下町の整備も進められました。現在の栃木市の基礎となる「栃木町」の誕生です。ところが1609年、江戸幕府により広照の領地が失われ、栃木城は皆川氏の本拠となっただけでなく、20年たらずでなくなっていました。

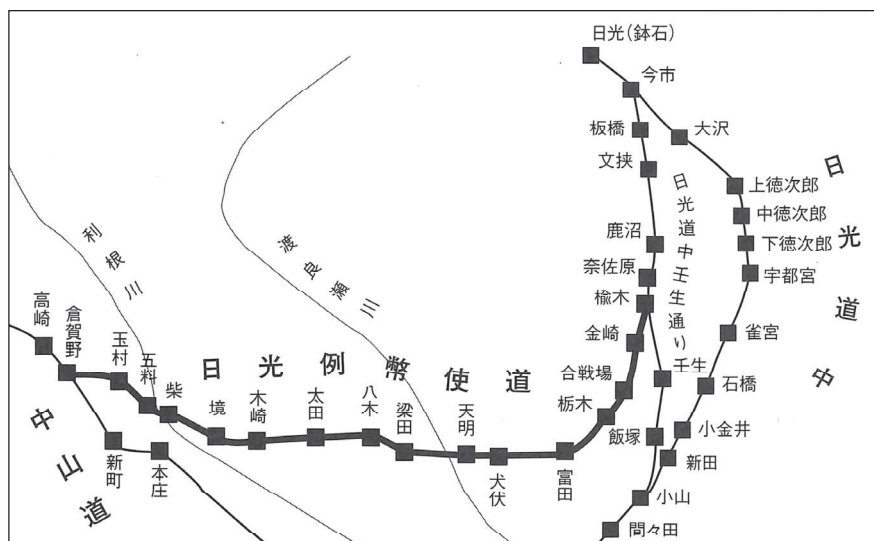
しかし栃木町は、徳川家康の死をきっかけに大きく発展します。家康が日光山にまつられることになったからです。家康をまつる東照宮の建造や法要に必要な物資は、江戸から渡良瀬川、巴波川などの「舟運」で運び、栃木町で荷下ろしされました。また東照宮完成後には、京都の朝廷から東照宮へつかわされた使者が通る「日光例幣使道」も整備され、栃木町はその重要な宿場として栄えました。このようにして栃木町は「舟運」と「日光例幣使道」により交通の要所として発展していきました。



▲ 今も残る栃木城の堀



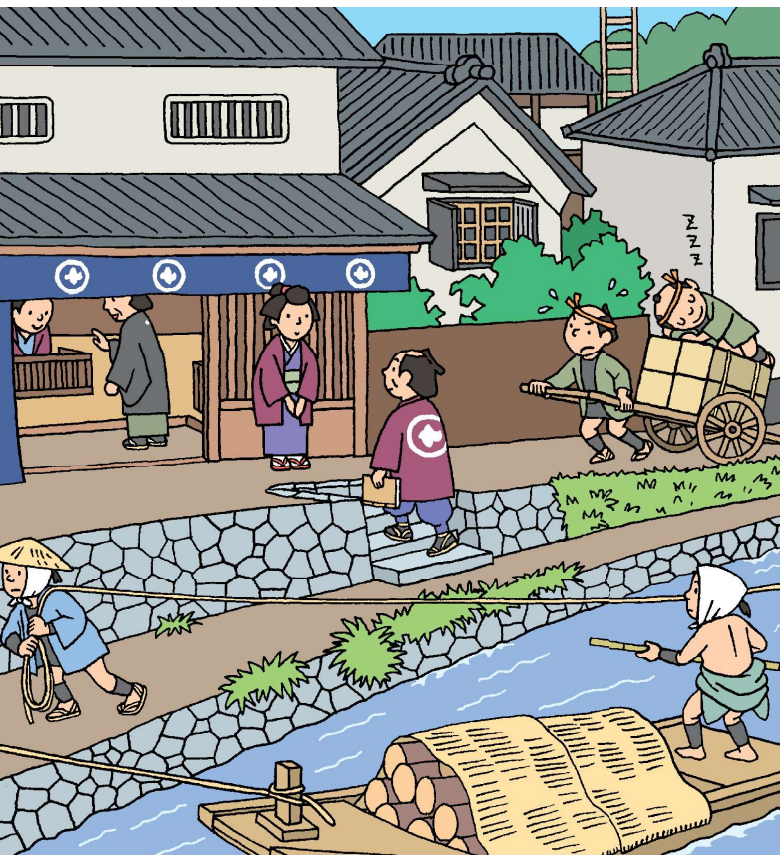
▲ かつての巴波川の様子 (片岡写真館蔵)



▲ 日光例幣使道とその周辺の街道

(栃木県教育委員会2011『栃木県歴史の道調査報告書第二集』より一部改変)

# にぎわった江戸時代



## ▶ 幕末の動乱を 商人の知恵で乗り切る

1853年の黒船来航を皮切りに、日本には数多くの外国船がおし寄せます。開国して貿易が始まると、物価の高とうや品不足で人々の生活は苦しくなり、全国で一揆や打ちこわしが発生。社会は混乱し、天皇を尊び、外国勢力を追いはらおうとする運動（尊王攘夷運動）も起き、1867年に将軍徳川慶喜が政権を朝廷に返します。260年以上も続いた江戸幕府が終わりました。幕末の混乱期には栃木町も打ちこわしにおそわれそうになったものの、米や金銭などをあたえることでたくみに回避しました。

...column 教えて!とち介...



## 幕末の栃木町で大きな戦いや事件はあったの？

1864年に「天狗党の乱」がありました。

尊王攘夷を求めて戦いを起こした天狗党という一団が、資金集めのために金崎・合戦場を通して栃木町におし寄せました。さわぎをおそれた商人たちがお金をわたしたものの、天狗党は松明に火を点けて町の家々に投げ込みました。町は大火事になり、237軒もの家が焼けました。これを栃木町では「愿蔵火事」と言い伝えています。この火事もふくめて栃木町は江戸時代末期に4回もの大火があったことから、それを教訓に土蔵造りの建物が増えたともいわれています。

江戸時代の土蔵建築で今も残る善野家土蔵





# 近現代① 明治～昭和初期

西暦1868年～1940年ごろ

# 文明開

## ▶ 栃木県最初の県庁は栃木町に

明治政府は1871年に江戸幕府以来の藩の制度をやめ、県を置きました。「廃藩置県」です。下野国には当初複数の県が設置され、その後栃木県と宇都宮県に整理されました。1873年には栃木県に統一され、県庁は栃木町に置かれました。

県庁の庁舎はまわりを堀（県庁堀）でかこまれ、巴波川から直接舟が着くように県庁の堀と巴波川をつなぐ堀（漕渠）もつくられました。大通りには36基のガス燈が設置され、学校や銀行など文明開化を象徴するものが次々にできるなど、栃木町は県庁所在地として急速に近代化していきました。

ところが1884年、県庁は宇都宮に移りました。宇都宮のほうが県の中央に位置し、交通が便利であることが理由の一つです。



◀ 旧栃木県庁舎（片岡写真館蔵）

...column 教えて！とち介...



## 産業の発展で「公害」の問題はなかったの？

「足尾銅山鉍毒事件」という大きな鉍毒災害事件がありました。

足尾銅山は明治時代に産出量が急増し、周辺の環境が悪化。鉍毒をふくんだ土砂が渡良瀬川に流れこみ、流域の農民が大きな被害を受けました。栃木県選出の衆議院議員・田中正造は、流域の農民とともに鉍山操業停止と補償を求めて鉍山側と激しく争います。政府は1903年に、洪水の予防と鉍毒を底に沈ませるための遊水地建設を決定。谷中村の村民は立ち退きすることになりました。



田中正造銅像 ▶

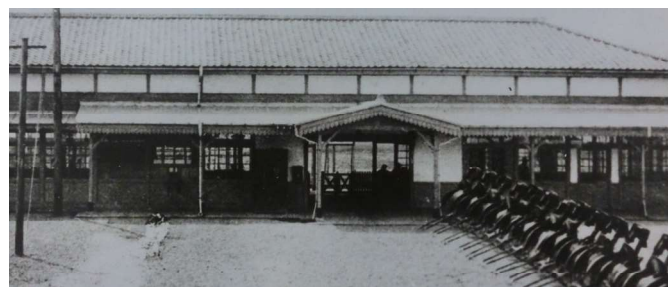


# 化から急速に近代化



## ▶ 舟運から鉄道・車へと 主役が交代

1872年に日本初の鉄道路線が新橋駅-横浜駅に開通。鉄道の時代の幕開けです。栃木町でも1888年に両毛鉄道（今のJR両毛線）が開通。町には自動車も走り、1926年にはバスの運行も開始されます。1929年に東武鉄道日光線が、1931年には東武鉄道宇都宮線が開通しています。一方でこれまでの輸送を支えた舟運は衰退していきました。



▲ 2代目栃木駅舎（明治43年）（片岡写真館蔵）



栃木町役場と県庁堀（今の栃木市立文学館）

## ▶ 時代の変化に対応

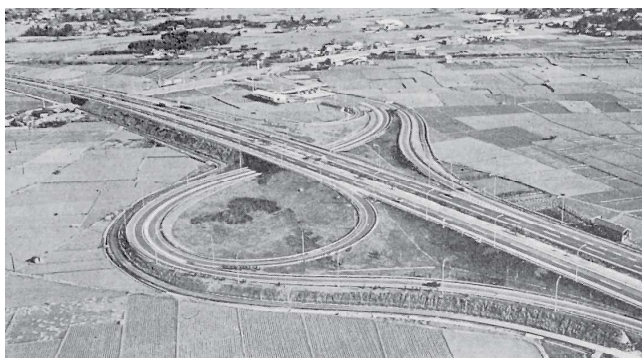
明治時代から、大きく生活や産業が変化していきます。人々の暮らしでは、髪形や衣服、食べ物などが洋風に変わっていきました。農業では、麻の栽培、外国産品種の導入、農業技術の改良、新たな用水路や水車がつくられました。工業では、石灰や岩舟石の採掘が始められ、鍋山町や岩舟-藤岡町に人車鉄道（人がレール上の貨車を押す鉄道）がしかれました。味噌や醤油、瓦、石灰、生糸、藍等の産業に加え、麻、ヨシやその加工品が作られ、各町の中心街でこれらの商売が行われました。また、1921年には栃木町に洋館風の役場が建てられ、大平町では1944年に軍隊で必要とされるものをつくる大規模な工場がつけられました。



## ▶ 戦後の復興をささえた産業

終戦直後は空襲の被害や品不足などで苦しい生活をしていました。しかし栃木市はそこから見事に立ち上がります。戦時中から盛んだった下駄の製造では、機械を使ってさらにたくさん生産され、1950年代には、東京や東北・北海道の市場へと進出。広島県・静岡県と肩を並べて栃木県は三大生産地の一つになり、栃木市がそれを支えました。

また終戦翌年には太平山南側の山麓地帯で「大平下ぶどう組合」が発足し、ぶどう栽培が始まります。土地改良や農道整備も行い少しずつ規模を拡大させ、1973年に「大平町ぶどう団地」が完成しました。



## ▶ 急速に進化する栃木市の街並み

戦後は市中心部の街並みも大きく変わっていきます。倭橋付近から北にのびる道路がつくられ、通り沿いに店や住宅が混在する新しい町ができました。大通りはアーケードの設置や建物の建てかえが進み、伝統的な建造物も近代的に見えるように外観が変わりました。見世蔵や木造店舗が並ぶ古い街並みが、見た目には現代的な街並みへと変わりました。

1972年に東北縦貫自動車道栃木インターチェンジの使用が始まると、市街地周辺に栃木環状線など次々と新しい道路が開通し、新たな商業施設もできていきます。1990年の百貨店の出店まで、栃木市の街並みは目まぐるしく変化していきました。

▲ 上：昭和の大通りの様子（片岡写真館蔵）

下：東北縦貫自動車道と栃木インターチェンジ

# 然が共存する栃木市へ

## ▶ 渡良瀬遊水地の 豊かな生態系を次世代に

1997年に完成した渡良瀬遊水地は、河川の氾らん防止や首都圏への水の供給などに大きな役割を果たしていますが、それだけではありません。遊水地の内陸部は国内最大級のヨシ原のある湿地になっており、多くの動植物が生息する豊かな生態系が形成されています。世界的に湿地が減少するなかで、渡良瀬遊水地は非常に貴重な存在であり、2012年にラムサール条約※登録湿地になりました。この貴重で豊かな自然を、私たちは大切に保存し、次世代へと受け継いでいかなければなりません。



空から見た渡良瀬遊水地

※正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、水鳥が休んだり、えさを取ったりするのに大切な湿地を保護するための国際的な取り決め。登録された湿地は環境の保護が義務付けられる。

...column 教えて!とち介...



## どうやって歴史的な 建物を残したの?

栃木市では昭和の終わりごろから市と住民が協力し、歴史的建造物を活かしたまちづくりを進めてきました。特に1990年から30年以上かけて大通りのアーケードの撤去や建造物の外観の復元に取り組み続けた結果、活気にあふれた時代を象徴する見世蔵や土蔵などの歴史的建造物を数多く残すことに成功。「蔵の街とちぎ」や「小江戸とちぎ」として知られるようになりました。

上：大通りに残る歴史的建造物 ▶  
下：現在の大通り (2024年1月)





## 栃木市にある貴重なたから

### ❖ 村檜神社本殿（建造物）

本殿は1533年に建てられたもので、室町時代後期のけっ作です。本殿左方の柱には、飛騨の工匠、左甚五郎の作と伝えられる彫刻があります。境内にはスギの大木や植物が自生して希少生物も生息する林で、村檜神社社叢とよばれ大切に伝えられています。



下野七廻り鏡塚古墳  
出土品（考古資料）  
…9ページ

### ❖ 藤岡神社遺跡出土品（考古資料）

数多くの出土品のなかでも、縄文時代後期から晩期（約4000年から2600年前）にかけての土器・土製品、石器・石製品など1,244点は、縄文時代の精神文化や生活を示す貴重な資料です。なかでも土製品のうち犬形土製品は、まるでほえかかるようにつくりで、日本の犬の系統と人との関係がわかる資料として注目されています。



# もの

栃木市にも、長い歴史の中で生まれ、わたしたちの先祖によって今日まで守り伝えられてきた、古いたからもの（文化財）があります。ここではどんなものがあるのか、少しだけみていきましょう。

## ❖ 鉄造薬師如来坐像（彫刻）

鎌倉時代につくられた鉄製の仏像の代表作です。1277年につくられたものですが、作者はわかっていません。像の高さは90.0cmあり、ごく一部にうるしが残り、さらにその上に金ぱくを重ねています。



あづま いせき  
吾妻古墳（遺跡）

…9ページ

こく ちやうあと  
下野国庁跡（遺跡）

…10、11ページ



## ❖ 栃木市嘉右衛門町 伝統的建造物群保存地区 （伝統的建造物群）

日光東照宮へ向かう天皇の使者が通ったという日光例幣使道沿いに発展した嘉右衛門町地区には、見世蔵をはじめとする江戸末期から昭和前期ごろの建物が数多く残り、2012年に栃木県初の国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。





## 栃木市にある貴重なたから



### ❖ 大慈寺相輪椽(建造物)

現存する寺院としては栃木県内でも古いお寺、大慈寺にある仏塔です。815年に仏教僧・最澄が全国6か所に建てたものの1つですが、後に大火で消失。現在の仏塔は1725年に再建されたものです。高さは3.2m、直径80cmで、塔の中には法華経がおさめられました。

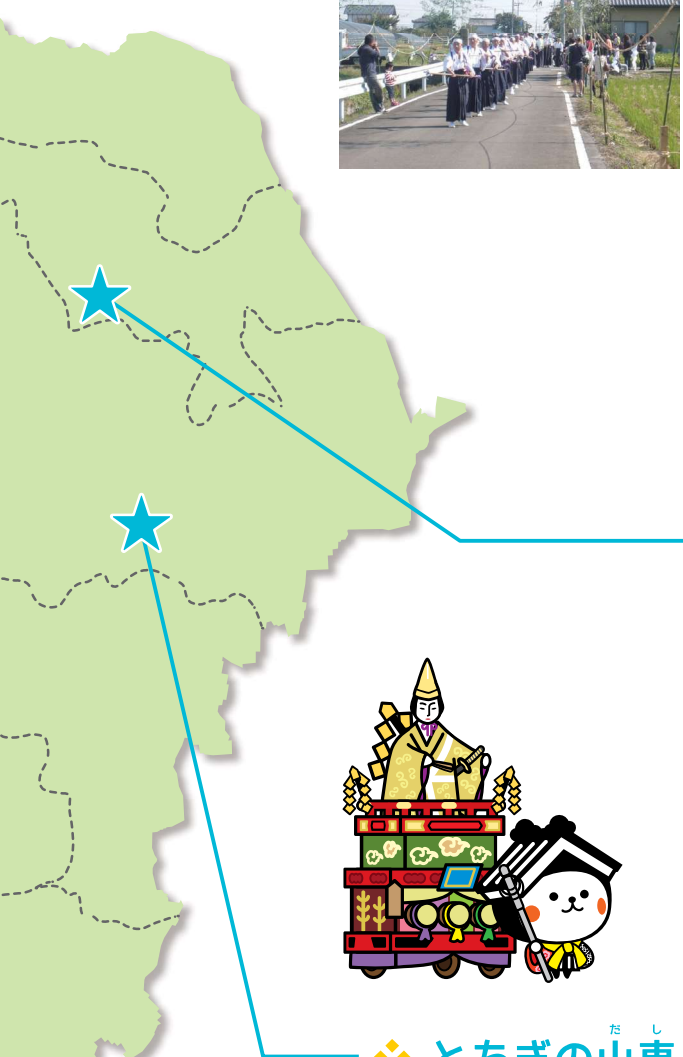


### ❖ 岩船山高勝寺(建造物)

岩船山は死者の魂が集まる場所と言われ、関東の一大霊場として古くから人々に信こうされてきました。現在でも子授け、子育て、安産祈願に多くの方が訪れます。また境内にある江戸時代中期に建立された三重塔や山門は、県内でもすぐれた建物として評価されています。

# もの

この古いたからものたちは、意外と身近なところにあります。これまでに学んできた、歴史を感じられるのではないのでしょうか。これからも大切に守っていききたいですね。



## ❖ 木の杖術 (無形民俗文化財)

木の杖術は都賀地域木地区の祭礼で、地元の人々によって長い間伝えられてきました。2年に一度、木八幡宮の氏子が「小天狗流杖術」を社に奉納し、杖と太刀の打ち合いの演舞が行われます。中学校の文化祭で生徒による杖術の発表があるなど、現在も伝え広められています。



## ❖ とちぎの山車

1874年に倭町三丁目が東京から、泉町が宇都宮から山車を買ひ、お祭りに出したことがきっかけとなり、広まりました。中でも万町一～三丁目、倭町二・三丁目、室町、大町にある山車は、江戸時代から明治時代に作られたもので、高さを調節でき、華やかな飾りや衣装がついています。他にも泉町の山車、嘉右衛門町の山車、倭町一丁目の獅子頭が受け継がれて、現在のお祭りが行われています。



令和6年3月18日発行  
発行：栃木市教育委員会

〒328-8686 栃木県栃木市万町9-25

監修：江田郁夫、津野仁、  
初山孝行、船木明夫  
栃木県立文書館



[https://www.city.tochigi.lg.jp/  
book/list/book39.html](https://www.city.tochigi.lg.jp/book/list/book39.html)



小学校 年 組